

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号473にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:472 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:471 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力をお願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:474 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力をお願い致します。

COOP-JOSO News Letter

2021年6月5回号 発行:常総生協広報G



2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

常総生協 シンボルマークとしての ロゴマーク完成！

2020年度第47回通常総代会にて可決承認された第2号議案の方針および重点課題として、常総生協の「ブランディングの構築」を掲げました。※2020年総代会議案書40Pの2020年度予算方針②-5) 参照

多数の生協がある中、①「常総生協の認知度」を高めること。②他の生協とは一線を画する「常総生協の独自性」をわかりやすくする。ため、シンボリック的なマークの必要性があると考えました。

2020年度第5回理事会にて、ロゴマーク作成の企画提案・プロジェクトの進め方の協議、承認を経て、理事会と広告代理店・デザイナーと一緒に、5回におよぶロゴプロジェクト会議を開催。常総生協では初めてとなるロゴマークが完成しました。

丸い形は協同の輪
を表しています。

JOSOの「J」をシンボルに
タネから芽吹くいのちと育
むことを大切に、「食は
いのち」を柱に活動を飛躍
させる意思を込めました。

タネは「いのちの
もと」を表してい
ます

色は「しあわせ、思いやり、
愛情」の表現としてピンク色
を採用しました。

Coop Joso

<ロゴマーク作成にあたり、主要となったポイント>

広告代理店・デザイナーから企業ブランディングの基礎を教えてもらいながら、以下をロゴマークに反映させました。

- ① 常総生協の理念
 - 「食は生命(いのち)」、協同の精神や役割
 - 常総スピリッツ (つながり、思いやり)
 - 組合員と培ってきた伝統、知恵、工夫の継承

② 常総生協の魅力（組合員の常総生協に対するイメージ）

- 安心、安全
- 正直、誠実、真面目
- いのちを大切にする
- 信頼できる 他

※2017年度春の討議資料「常総生協の魅力・セールスポイント」回答を参考

③ 第3者からみた常総生協（みつのり企画、他者からの常総生協イメージ）

- 食に対して真摯に取り組む姿勢
- 様々な取り組み、活動をしている

④ ロゴマークを使用した際の印象

- マークと常総生協のイメージの一致性
- 際立っていて、人目に付きやすい

今後、色々な場面でロゴマークが登場していきます。組合員に愛され、地域に人にも認知してもらえるようなマークにしていきたいと思います。

竹村さんのいちごハウスで「いちごを学ぼう」開催報告

例年竹村さんのいちごのシーズン終了時に開催している竹村さんのいちごハウスで「いちごを学ぼう」。今年もたくさんのお申込みいただきましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為人数を絞っての開催となりました。

～竹村さんのいちごの特徴～

毎年積み重なる良質な「土」

苗づくりだけでなく、土づくりも竹村さんの基礎。。山の土、米ぬか、クズ米、卵の殻、カニ殻、海藻、魚粉、モミガラなどを使い自家製の有機質肥料（ボカシ肥）を作っています。また、松の実、アケビ、にんにくなどを黒砂糖に漬け込み、発酵熟成させた「天恵緑汁」も全て自家製にこだわって土づくりをしています。いちごのシーズンが終われば、このハウスで切り返しをおこない肥やしにしています。毎年この土地に積み重なり、指先を入れれば簡単に埋まってしまうほどフカフカで微生物が活発に動いています。

“万人に愛される赤い果実”として知られる「いちご」ですが、その農薬の回数は慣行栽培で40回(※)を超えることもあります。その中で竹村さんは「農薬無散布」を目指す、類を見ないいちご生産者さんです。

※茨城県特別栽培農産物認証制度「特別栽培農産物認証基準」より



【当日のスケジュール】

●9:30～10:10 いちごハウスの片付け(収穫体験)

●10:20～10:40 竹村さんのいちご栽培のこだわりについて

竹村さんのいちごハウスは全部で4棟あり、密を避けてのいちごのお片付け（収穫体験）となりました。シーズン終了後ということもあり、いちごは凝縮したように若干水分が減っていましたが、それが驚くほど甘く“感動”の声が続々と上がりました。収穫体験の後は、竹村さんのいちご栽培の「こだわり」についてお話を聞きました。

～参加された組合員さんからの感想～

100の説明より1度の経験！

楽しかったです。いちごの無農薬（減農薬）栽培の事を知りたかったので参加させていただきました。100の説明よりも虫に食われたイチゴやその中で赤々とおいしそうに（そして甘い）なっているイチゴとみれば、いかに毎日大変な作業を積み重ねられているのかよくわかりました。いつも配達していただくイチゴがどれほど貴重なものかも感じました。有難うございました。

イチゴ収穫体験では大変お世話になりました。有難うございました。お米も早速夕食にいただきました美味しかったです。来年のイチゴも楽しみにしています。収穫体験のイチゴはジャムにしました。とはいえあんまり甘くて濃くて美味しかったので3分の1ほどそのまま食べてしまったあとでしたが・・・（笑）
（石岡市：Yさん）

少し時間の経ったいちごもびっくりするほど甘い！

ハウスに入った途端、たくさんいちごがあるわけでもないのに、いちごの甘い香りが強く感じられ、感動しました。一粒一粒がとても甘く、味が濃く、ドライフルーツのように、少ししなしなになったものも口にしましたが、びっくりする位甘かったです！家に帰ってから、プレーンタイプのヨーグルトとスムージーにするのに、洗って冷凍しました。息子も言っていました、無料で収穫させていただき、貴重なお米もいただき、申し訳ない位でした。コロナで難しいかもしれませんがお返しに何かお手伝いできることがあれば、させていただきたいです。

（阿見町：Mさん）

普段スーパーで並んでいたら買おうか迷う姿のいちごも...美味しい!!

とっても甘くて美味しかったです！感激しました。少しゴワゴワしているものの方がドライイチゴのような感じで甘みが増していました。普段スーパーで並んでいたら買おうか迷ってしまう姿のいちごたちも食べてみたらすごくおいしかったので、無農薬の力を実感しました。いちごの農薬の数を聞いて、スーパーのいちごや、いちご狩りのいちごを食べるのが少しこわくなりました。たくさんお土産も頂くことができ、アイスにしたりジャムにしたりたくさん楽しませてもらい大変満足です。ありがとうございました！

（守谷市：Kさん）

子ども真剣な眼差しで...

子供たちにとって初めてのいちご狩りでした。真剣な顔でいちごを探す様子はとても新鮮で、カゴいっぱいにはいちごを入れてとてもうれしそうでした。いちごはとてつもなく甘く、とてもおいしかったです。貴重な時間をありがとうございました。

（守谷市：Mさん）

※この度抽選に漏れてしまった方につきましては、誠に申し訳ございませんでした。これから冬のシーズンスタートに向けて、土作り・苗床作りから準備を進めて行きます。今年は12月上旬から企画予定ですので、乞うご期待ください！

【お知らせ】次週（6/21）より、冷蔵の商品のお届けに使用しているレジ袋をガセット袋（マチ付きの大きめの袋）に変更します。

現在、冷蔵商品は、レジ袋に入れ、シッパー（発砲スチロール箱）に詰めて組合員の皆さんにお届けしています。商品を1点1点レジ袋に入れるのは手間のかかる作業であり、また、1箱に対して何枚ものレジ袋を使うことになります。

新しく使用するガセット袋は、箱をすっぽり包み、商品を袋の中に入れる手間が省けます。素材としてはポリエチレンを使用しており、プラスチック容器包装（プラ容器）として処分できます（各市町村のゴミの分別ルールを参考にしてください）。質量は、現在使用のレジ袋（M）2枚分にあたり、1箱に複数枚使用したり、大きめのレジ袋を使用したりしているので、今よりプラスチック製品の使用量を増やす事にはならないと考えています。

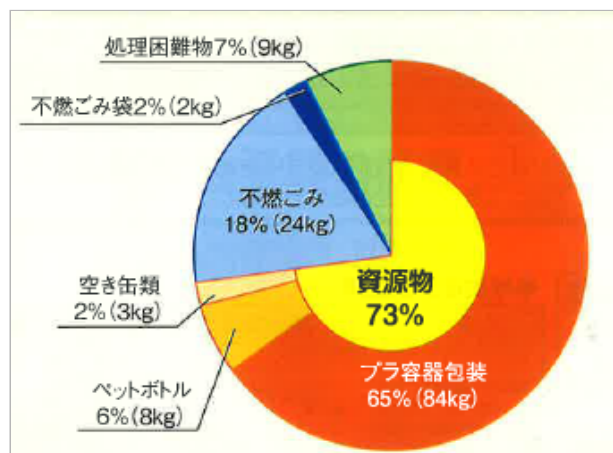
今回のガセット袋の変更は、業務改革と働き方改革の両面から、作業時間の短縮とコスト、そして環境にも配慮した取り組みとして進めていきたいと考えています。

常総生協の本部のある守谷市のゴミの焼却・資源化を担う施設「常総環境センター」で不燃ごみを抜き取り検査した結果が報告されていました。

なんと資源物が70%以上混ざっているということです。資源となるものをきちんと分けて、ルールを守って資源やゴミを出すことで、ゴミの焼却量を減らし、資源を循環させることができると利用者に協力を呼びかけをしています。

私たちが家庭で分別のひと手間をかけることによりゴミから資源に変えられるという事で、実践していきましょう。

※グラフ資料：常総環境センターで抜き打ち検査をした不燃ごみ130kgの分類（広報「じょうそう」より）



～みんなで理解を深めよう～ 脱プラスチック学習会（ZOOM開催）

近年社会問題として取り上げられているプラスチックゴミ問題。常総生協としても、卵パック、牛乳瓶、トマト箱をはじめ、様々なものをリユースしていますが、その内容・問題は具体的にどのようなもののでしょうか。不定期にJOSOカタログと一緒に届くチラシ【エコデバ】でお馴染み、生活アートクラブの社長・富士村夏樹（ふじむらなつき）氏を講師としてお招きします。



脱プラスチックの理解を深め、明日から使える脱プラ、暮らし方のヒントを頂きます。この講座はオンラインでの開催です。ご自宅からお気軽ご参加ください。

※当日参加が難しい方でも事前質問を受付しています。下記申込フォームよりご入力ください。

■日時：7月10日（土）10：00～11：45

■場所：ZOOM(インターネットを使ったオンライン)開催

※リモート参加が基本ですが、通信設備等の都合でリモートでの参加ができない方で、配信元（常総生協本部、組合員活動室）でのご参加ご希望の方は、生協までご連絡ください。配信元での定員人数：8名まで

■内容

- そもそも、脱プラスチックとは？
- 環境や人体にどのような影響を及ぼすのか？
- 世界と日本の現状は？
- 明日から使える身近な脱プラ術とは？

■講師：生活アートクラブ 富士村夏樹氏

エシカル&エコロジーをテーマとしたナチュラルな日用生活雑貨の卸売メーカー問屋。売れるモノを売るのではなく、売らなくてはならないモノをどう売るか、にフォーカスし消費者に向けたメッセージ性のある制作物にも力を入れている。環境に配慮した取組みが評価され2015年、2020年と2度に亘り「グリーン購入大賞」で「優秀賞」を受賞。



■参加費：無料

○申込方法 ★申込締め切り：6/30（水）17時まで

①ZOOM参加者の場合

専用の申込フォームにご入力ください。

後日メールにてZOOMのURLと事前資料を配信してお知らせ致します。

申込フォーム（<https://forms.gle/ThRixN1cJwxcP9SE7>）は常総生協ホームページにも掲載していきます。

右記のURLでも読み取れます。→

②生協組合員活動室での参加希望の場合

常総生協本部に電話（☎0297-48-4911）にてお申込み下さい。人数調整の上、後ほどご連絡致します。

脱プラスチック学習会

